

馬場小室山遺跡フォーラム」第72回ワークショップ

【原動力！パブリック・アーケオロジー2016】

馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーからみえてきた現代社会との「かかわり」と未来への新たな挑戦

1.【見沼たんぼの「植え田」と「摘み田」を巡って】：見沼たんぼの底の深い泥田は弥生時代にも存在したか？

1-1. 発掘データに学ぶ見沼たんぼの地層：弥生時代の土層を探そう！

(1)大宮第2公園に所在する寿能泥炭層遺跡の地層から分る「見沼たんぼの下」

- 標高6m : ・大宮区における見沼田圃の標高
・表土とその下は中世以降の泥炭層（暗黄褐色土）
- 標高4m : ・平安時代の泥炭層（灰オリーブ土）
・その直下に古墳時代の泥炭層（黒色土）
- 標高3.3m : ・縄文時代後晩期の泥炭層（黒褐色土）
・縄文時代後期初頭の泥炭層（黒褐色泥炭質粘土）
・縄文時代中期の泥炭層（暗褐色泥炭質シルト）・・・・・・ここまでが泥炭層
- 標高2.2m : 褐灰色粘土層（無遺物）
- 標高1.8m : 縄文時代前期の層など（黄色砂と灰色粘土の互層、青灰色粘土層と直下に黄褐色砂層）
- ◎標高1.1m : 縄文時代草創期（含む「燃系文土器」）の層（黒色粘質土層と直下に黒褐色砂質粘土層）

(2)第1調節池に所在する四本竹遺跡の地層から分る「見沼たんぼの下」

- 標高4m : ・緑区における見沼田圃の標高／・表土とその下は記載なし
- 標高3m : ・黒色土層／・その下に灰（褐）色粘土層
★丸木舟（直下の自然貝層が前期であることから縄文時代中期と推定）出土
- 標高2m : <基底部浅いテラス部>
*自然貝層（標高-1mまで貝層） ★C14年代で5,450YBP～5,750YBP
*以下、黒色粘土層、緑色砂層と続き、標高-2mで緑青色岩盤に至る。
<基底部-17m深度の中央部>
*青（灰）色粘土層：標高2.15mが竹の検出面（778本+穴12=790本分）
★見沼田圃以前に氷川女体神社が行った「磐船祭」の四本竹遺跡
*砂質粘土層
*自然貝層（標高-2m以下が貝層）
★C14年代で6,675YBP～7,110YBP

(3)三室大道東遺跡（芝川の河川改修工事）の地層から分る「見沼たんぼの下」

- 標高4m : ・緑区における見沼田圃の標高
・表土とその下は記載なし
- 標高2m : ・泥炭質シルト層（9層）から丸木舟出土。縄文時代中期の土器も出土。
★土壌のC14年代で4,780YBP
・12層の珪藻群集は汽水。
★縄文時代前期の海は大道東遺跡より引いている！

1-2. 稲作の自然条件と栽培方法（メモランダム）

- ・【水田土壌】稲作は天水依存であれ人工灌漑であれ、灌水条件さえ良好ならば砂壤土から埴土にいたるまでたいいの土壌で作付可能。最適な土壌は埴壤土、重粘な土壌は不適。粘土質50-60%までを含む沈泥土（シルト）が好適。
- ・【水稲生態】水稲栽培は耕土の物理的条件が多少悪くとも、気温と水利に恵まれれば可能。昭和30年代の最適気温は、発芽から茎葉の伸長には32度くらい、分けつには32-34度、開花は30度、穀実の最高収穫には30度と言われている。10-12度以下の低温では発芽しない。水温も重要で、最近の栽培実験では24度は必要で、22度では5割に落ち、20度では不稔となる。水田土壌は天然状態においても極めて肥沃で、灌水条件さえ良好ならば、ほとんど無施肥の粗放経営で連作しても、反当り略一石の収量をなかなば永久的にあげられる。水田には雑草も少ない。
- ・【附：畑作生態】<稲は地力でとり、麦は肥料でとる>畑作物は無肥料で連作すると三年目の収穫はほとんど皆無。窒素、特にリン酸とカリは人為的に補給しなければならない。
<家畜なくして農業なし>家畜飼養と畑作農法とは不可分の関係。
<畑とは「火の田」と書く>畑作の原始形態はどこでも焼畑式の移動農法。

- ・【栽培方法:直播(「摘み田」)】見沼田んぼのように底の深い泥田では植え替え作業が困難なため、「摘み田」で栽培された。広辞苑「苗が生じてから多すぎる所を適宜摘み去り、他を育てる田」としおり、余計なものを摘み去るので摘田という、と説明。一方で籠瀬良明(地理学)は種もみを摘みで播くので摘田という、と説明。『アーバンポタ』19号の籠瀬論文には種もみを入れた桶を抱えて種まきをしている写真が掲載。沈まないようにするため、丸太をおいてそのうえで仕事をする、と説明。今日では以下のように分類される。

直播様式	定義	播種法に基づく種類
湛水直播	播種前に湛水を伴う播種様式	1. 不耕起播種 2. 耕起代かき作溝播種 3. 耕起代かき土中播種 4. 耕起代かき表層播種 5. 耕起無代かき播種
乾田直播	播種前に湛水を伴わない播種方式	1. 不耕起播種 2. 耕起播種 3. 耕起作溝播種

- ・【栽培方法:移植(「植え田」)】苗代田への直播後、成育した苗を本田に田植える今日一般的に見られる栽培方法。今日のような正条植のみならず、熱帯地方では乱植も見られる。

1-3. 弥生時代の灌漑農業と「見沼文化」

- ・【「遠賀川式」以前】佐賀県菜畑遺跡で「山ノ寺式」期の湿田遺構(水路・畦・土留め用矢板・杭列・石包丁・木製鍬など)、福岡県板付遺跡で「夜臼式」の乾田遺構(水路・井堰・取水排水口・杭や横木と矢板で補強された畦畔・石包丁・木製鍬など)が検出後、西日本一帯へ農業土木も含め完成された水稻農業が波及。
- ・【移植(植え田)の可能性】水田遺構への施肥の痕跡は水田面に植物遺体が敷き詰められたように検出される現象として見出されるが、弥生式後期以後のようである。施肥には大足が必要とされる。田下駄は祭祀用かもしれない。稲株痕は弥生式前期から見出され、正条植以外の例が多いが、後期になると正条植が多いようである。正条植以外は移植(田植え)とは異なる意見もあるが、鉄製農具の利用と奴隷労働による農業経営の面期が正条植に至った可能性もある。施肥と正条植から移植(田植え)栽培法の開始とするか、「遠賀川式」以前に遡って移植(田植え)が行われたかは未明。
- ・【「見沼文化」の灌漑農業】「宮ノ台式」期から環濠集落が形成される。環濠という土木工事が可能であれば、灌漑農業は十分に可能である。後期の環濠集落は規模が拡大しており、人口増加に対応可能な農業経営が行われている。畑作の規模拡大であろうか？志木市田子山遺跡21号住居址床面ではイネ 81,481 粒、アワ 194,993 粒、マメ 339 粒の炭化種子が検出された。水稻耕作と畑作は労働季節性から両立しないため、環濠集落が灌漑農業の中心であった可能性が高い。

2. 【馬場小室山遺跡の「縄文塚」と「見沼文化」】:(附)寺野東遺跡との比較形態学を通した特徴

- ・馬場小室山遺跡の「環堤土塚」と寺野東遺跡の「環状盛土遺構」の本質的な違いはムラの構成にあり！
- ・馬場小室山遺跡の「第 51 号土壌」と対比すべき寺野東遺跡の晩期中葉「SX036埋設土器遺構」に注目！「SX036埋設土器遺構」は前世代の土壌の上に次世代土壌が構築され、3世代の累積が確認。

3. その他、ワイン・アーケオロジーによる情報交換会など :

3-1. 遺跡情報

- (1) 晩期中葉から後葉にかけて発達する浦和区前窪遺跡発掘調査報告書近刊
 - ・東海地方の「五貫森式」、中部地方の「女鳥羽川式」に並行する「大洞A1式」期初頭の「前窪式」制定のタイプサイトで有髭土偶も検出。
- (2) 見沼区小深作遺跡発掘調査報告書近刊
 - ・標高11-12mの低台地に立地する加田屋川の谷奥集落。晩期の主体は南側、今回の地点は北側。鴨志田隼司氏宅の近隣とのこと、土地区画整理事業の道路工事関係で遺跡の現状に懸念連絡あり。

3-2. 今後の予定

- (1) 「宮北会」との交流(4/8(金)予定):山田町北浜老人ホームを中心とした復興支援ボランティア団体
- (2) 第73回ワークショップ(5/4(みどりの日))
 - ・(AM) 毎年恒例のクリーンアップ大作戦 → (PM) 三室公民館で①市民フォーラムのふりかえりと今後の展開について、②再葬墓出土のヒスイ勾玉と管玉を中心に晩期後葉～弥生式中期中葉における玉研究の現状と展望を議論開始。